

＜ 2009年農林水産研究成果10大トピックス＞  
農林水産技術会議事務局

＜タイトル＞

米粉や飼料用米への利用が期待される九州向け水稻多収新品種「ミズホチカラ」を育成

＜当該研究成果のポイント＞

（独）農研機構 九州沖縄農業研究センターは、玄米収量が優れ、米粉や飼料用米への利用が期待される九州向け水稻多収品種「ミズホチカラ」を育成した。本品種の玄米収量は、一般主食用米より約20%高く、また耐倒伏性が強いため、低コスト直播栽培にも適する。

本研究は、農林水産省委託プロジェクト『粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発』において得られた成果である。

＜期待される効果・今後の展開など＞

食料自給率向上及び耕作放棄地対策として、水田での生産が可能で、米粉や飼料用米へ利用される新規需要米の増産が求められている。新規需要米の低コスト安定生産のためには、高い収量性と優れた栽培特性を兼ね備えた多収米品種の利用が有効である。

新品種「ミズホチカラ」は、玄米収量が一般主食用米より約20%高く、米粉や飼料用米への利用が期待される。また、耐倒伏性が強く、低コスト直播栽培にも適する。

「ミズホチカラ」は、一般食用米である「ニシホマレ」級の中生品種で、九州地域の平坦部において利用が期待される。平成21年度より、福岡県では飼料用米、熊本県では米粉パン用に試作が開始された。九州向け本品種の育成により、我が国の各気候区分（北海道～九州）に対応した多収米品種のラインナップが完成した。

＜研究所名＞

（独）農研機構 九州沖縄農業研究センター

＜担当者名＞

（独）農研機構 九州沖縄農業研究センター

低コスト稲育種研究九州サブチーム長 坂井 真 TEL 0942-52-0647

＜連絡先＞

（独）農研機構 九州沖縄農業研究センター 広報普及室

室長 橋本知義 TEL 096-242-7682

# 水稻多収新品種「ミズホチカラ」を育成

## ～米粉や飼料用米としての用途に期待～

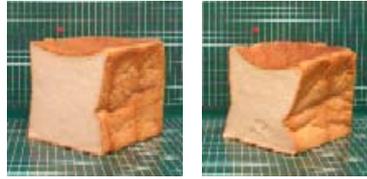
品種名の由来: 水田で力を発揮する多収品種の意味



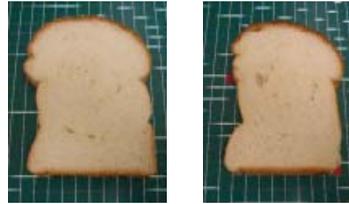
ミズホチカラ

コシヒカリ

角型食パン



山型食パン



ミズホチカラの圃場における草姿

ミズホチカラで試作した米粉パン

生育特性(九冲農研、平成3年から20年の普通期栽培平均値)

品種名 系統名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	粗玄米重 (kg/10a)	比較比率 (%)	耐倒 伏性
ミズホチカラ	9.02	10.31	76	21.4	304	725	118	極強
ニシホマレ(対照)	9.03	10.22	91	19.9	354	606	100	やや強

栽培特性(九冲農研、平成3年から20年の普通期栽培平均値)

品種名	ミズホチカラ	ニシホマレ
早晩生	中生の晩	中生の晩
草型	穂重	偏穂数
いもち病推定遺伝子	不明(真性)	+
耐葉いもち	不明	やや弱
病穂いもち	不明	中
性白葉枯病	弱	中
縞葉枯病	罹病性	罹病性
穂発芽性	やや易	やや難

多収事例(試作栽培)

試験地・年次	粗玄米重 (kg/10a)	比較比率 (%)	対照品種
5 広島県福山市(2008)	1007	-	-
月 富山県富山市(2008)	839	120	コシヒカリ
植 茨城県つくばみらい市(2001-08)	828	132	日本晴
6 香川県善通寺市(1994-95)	926	138	日本晴
月 福岡県筑後市(1992-94)	829	123	ニシホマレ
植 福岡県筑後市(2008)	913	-	-